



光徳だより



「子どもの育む
京都市民憲章」

7つのコンセプト						
学力向上	人権尊重	生徒指導	言語環境	環境整備	連携強化	協調協働

☆学校教育目標☆

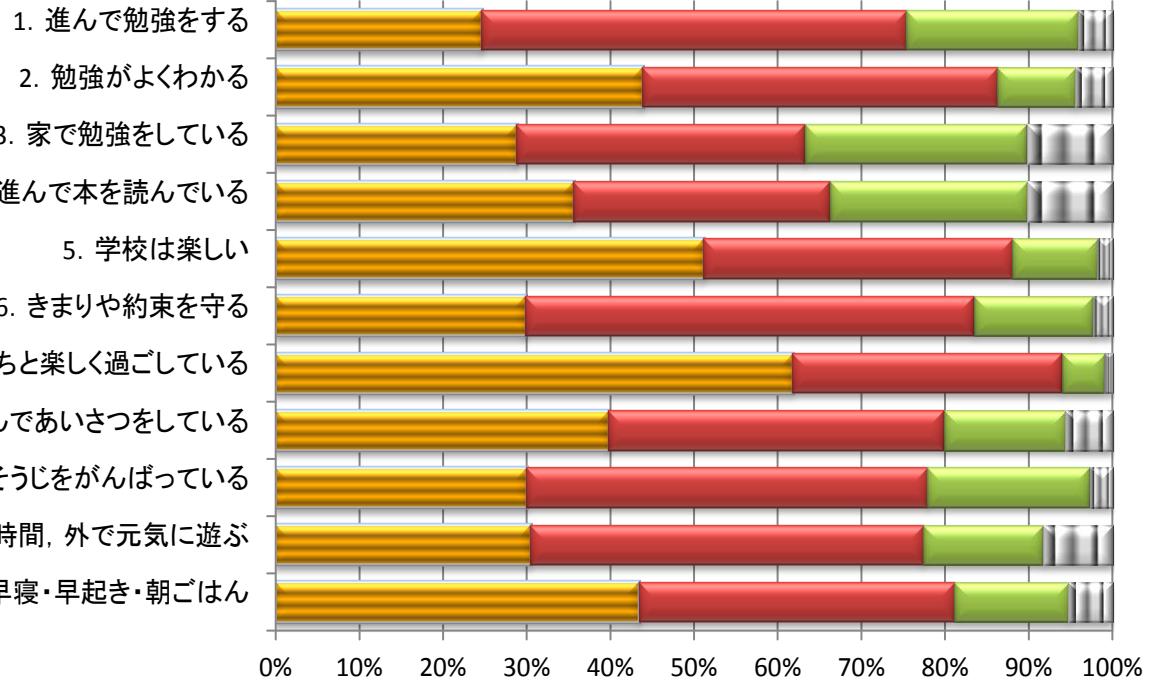
すなおで、なかよし、のびゆく、われら！

平成 28 年 3 月発行 京都市立光徳小学校 後期 学校評価号

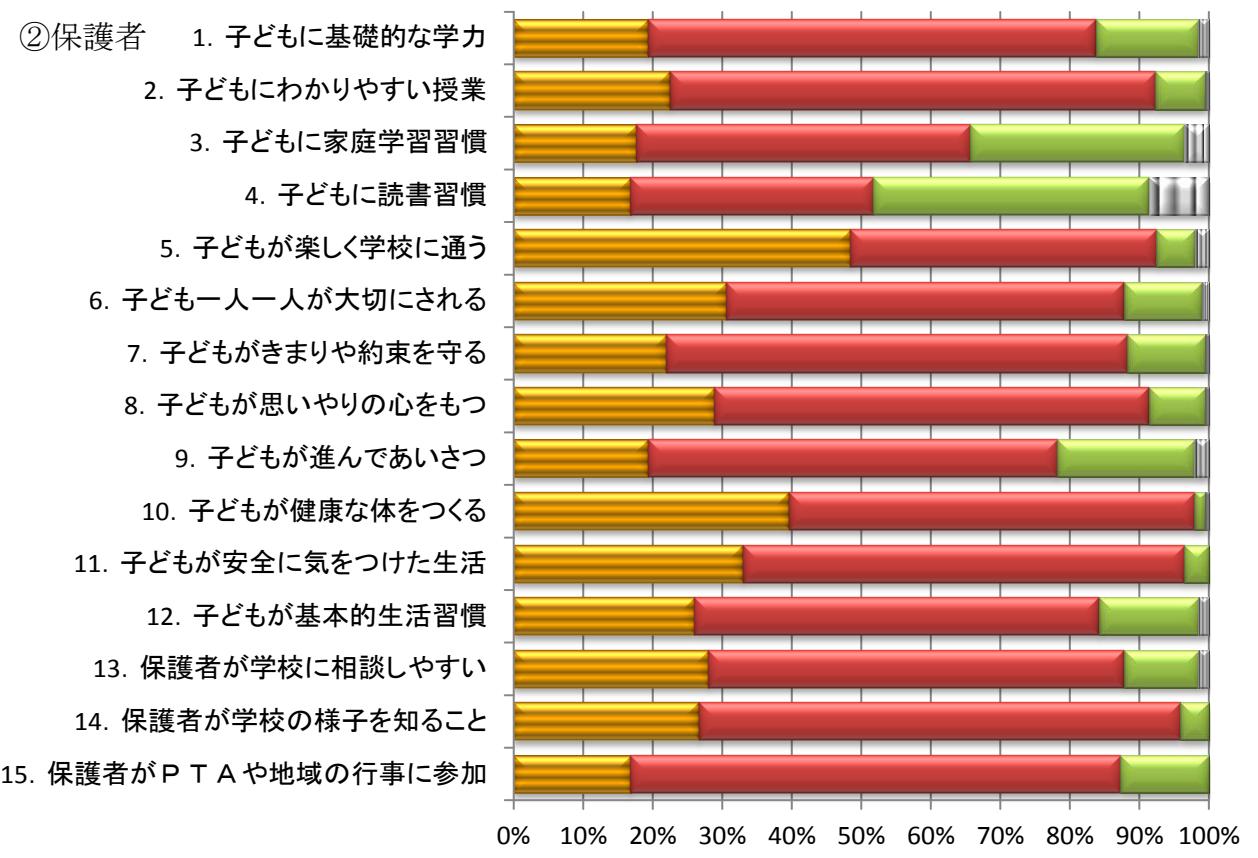
(1) アンケートの結果から(「よくできている」「だいたいできている」の回答割合が多い順)

■よくできている ■だいたいできている ■あまりできていない ■できていない

①児童



②保護者



学校教育目標「すなおで、なかよし、のびゆく、われら！」の具現化のための7つのコンセプトに即して説明をしています。これは、本校独自の視点による分析です。

※以下の文で、「増えている」「減っている」「変わらない」は前期と比べたものです。

(1) 学力向上・言語環境

児童の「勉強がよくわかる」の割合は90%近くあります。各担任は「授業改善」を行い、より「わかる授業」に取り組んだだけでなく、勉強の苦手な子に対しては放課後や休み時間を使って個別指導した成果であると思っています。

「勉強がよくわかる」児童の割合は少し減りましたが、男女差が少なくなりました。保護者の結果からも「基礎的な学力が身に付くこと」ができていると回答している割合が少し減っています。

児童の「家で勉強」する割合はあまり変わりませんが、「進んで勉強する」は減っています。保護者の「子どもに家庭学習習慣がつくこと」は増えています。しかし、児童・保護者ともに「家庭学習の習慣」の項目は、他の項目に比べ「できている」割合が低く、家庭学習のがんばりが不十分なようです。

「わかりやすい授業」については、保護者の90%以上の方が「よくできている」または「だいたいできている」と回答いただいている。保護者の方には「わかりやすい授業」であるとらえておられるようです。授業参観等で授業を見ていただき、「よくなっている」と評価されたことは、学校にとっては大変うれしいことです。ありがとうございます。学校では、さらに「わかりやすい授業」を研究してその改善に努力し、児童の学力向上のため取り組んでいきます。

学校の学習と家の学習の両輪がうまく回っていくことが子どもたちの学力向上に欠かせません。今回の学校評価から、子どもたちのさらなる学力向上には、家庭学習の習慣づけがキーポイントであると考えられます。

学校としては、より習慣づけできる家庭学習の課題を考えてまいります。ご家庭でも引き継ぎ、すすんで取り組む家庭学習の習慣が定着するよう、時間を決めて進んで学習できるよう、子どもたちに声かけをするとともに、テレビやゲームなどの時間を考えるなど、ご協力お願いします。

また、学力向上に大切な「読書」は、児童の回答はあまり変わりませんが、保護者は「読書習慣がついている」の回答が増えています。

教科書で学ぶ言葉の数はそれほど多くありません。多くの言葉を身につけるには読書がとても有効です。文章を読む読書指導をさらに進めていき、本を読むことを習慣とする児童を増やしていきたいと思います。

(2) 人権尊重

児童の「学校は楽しい」の回答はやや減りましたが、女子児童分が減っただけです。そのため男女差は縮まりました。「ともだちとのしくすごしている」はどうちらも変わりません。これら項目は、他の項目と比べると「よくできている」「だいたいできている」と回答している割合が第2位と第1位で、多くの子どもたちが、『学校は楽しく、友だちと楽しく過ごしている』ととらえていることはうれしいことです。これは、子どもの心に届く校長の人権講話を始め、毎月の「全校なかよし集会」で人権に関わる取り組みをしているだけでなく、学級では折にふれ、人権に関わる話をしたこと、子どもたちの人権意識が高まったのではないかと考えています。

保護者の「子どもが楽しく学校に通う」「子ども一人一人が大切」項目は、「よくできている」が増えた半面、「あまりできていない」も増えているため、全体として『できている』が減っています。「子どもが思いやりの心を持つ」で回答している割合は変わりません。

しかし、「学校が楽しくない」児童が少しでもいたり、保護者から見て、「子どもが楽しく学校に通う」「子ども一人一人が大切」ができていないと思われたりしていることは大きな課題です。学校では児童一人一人にさらに目を向け、すべての児童が『学校は楽しく、友だちと楽しく過ごす』ことができるよう努力し、全ての児童の人権が大切にされるようにしていきます。

(3) **環境整備**

「そうじをがんばっている」児童はわずかに減っています。心の安定につながる身の回りの環境整備、つまりそうじをすることは、学校を大切にするということにもつながります。平成27年度創立90周年を迎えた本校にとって、学校を愛し大切にしていく心を育てることは、これから光徳小学校のために大切なことだと考えています。また、本校が今年度重点を据えて取り組んできた「道徳教育」。その支えとして、道徳的環境の整備にも力を注いきました。全国からの参会者からも、たくさんお詫びの言葉をいただきました。

これからも、児童の健やかな成長に向けて、掃除時間に教職員は、児童と一緒に掃除して指導するだけでなく、道徳的環境はもとより学校環境や教室の学習環境整備に努めてまいります。

(4) **生徒指導**

「学校や学級のきまりや約束を守っている」児童の割合は大きく変化していません。社会生活を安心して過ごすための大切な『きまり』や『やくそく』、また『学習規律』を守ることは、今後社会に出てから『信用』を失なわないためにもとても大切なことです。今後も全校体制でさらに徹底していくことを願っています。

また、「自分から進んであいさつする」児童の割合は大きく変わっていません。しかし、同じ項目で保護者の回答は大きく増えています。朝の校門指導に始まり、あいさつ運動や標語作り、学級指導などで進めているあいさつの取組が、効果的であったと考えています。

しかし、保護者の回答項目中では「よくできている」「だいたいでいる」と回答している割合が3番目に低く、「家庭や地域に帰ってからのあいさつが不十分である」と感じられているのではないかと思います。

今後社会に出てから大切なことの一つに、あいさつが自然にできることがあります。また、あいさつがしっかりとできることは、人間関係の広がりにつながっていきます。学校だけでなく、地域、近所でも必要なときにはあいさつできるよう御協力をおねがいします。

「休み時間に 外で元気に遊んだり 進んで運動したりしている」「早寝・早起き・朝ごはんを食べている」児童の割合はあまり変わりません。

保護者の回答からは80%以上「基本的生活習慣ができている」となり、増えています。お家できちんと指導していただいて、生活リズム整えていただき、子どもが健康な生活が送れるようになっていることだと思います。

今後とも、健康な生活が送れるよう、よろしくお願ひします。

(5) 連携強化・協調協働

「保護者が学校に相談しやすい」という質問項目には、90%近くの保護者の方が「相談しやすい」と感じられています。今後とも、子どものためにも、何かありましたら、ご相談いただきますようよろしくお願ひします。

また、「保護者が PTA や地域の行事に参加すること」について 10%近く増えています。行事に参加することは大変かと思いますが、関わっていただける保護者の方が増えたことはうれしいことです。これは、保護者の方々が参加することの意義を感じていただいたからだと思っています。教職員もできる限り参加できるよう努力しています。

光徳学区に在住する大人たちのつながりは、子どもたちが地域社会の中で見守られ社会性をはぐくむためにも大切なことです。これからも、できるだけ積極的に参加いただきますよう、よろしくお願ひします。

学校評価推進委員会から

3月8日(火)に実施した学校評価推進委員会では、「学校評価アンケート」を基にした協議を行いました。協議にご参加いただいた委員の方々から、以下のような貴重な意見をいただきました。

今後の学校運営に生かしていきたいと思っております。どうもありがとうございました。

- ①家での勉強が少ないので、学校から強く「家庭学習をしよう!」の呼びかけをしていく。PTA からも同じような発信をしていく必要があるのでは。
- ②家庭では、家で勉強できる時間を確保するため、スマートフォンやゲームの時間を家庭で決めていく必要がある。特に、スマートフォンを持たせないようにしたり、持たせても使うルールを決めて持たせたりすることも大切。
- ③保護者にとって、スマートフォンやゲーム機器を買い与えるほうが楽なのは確かである。しかし、「持たせない」「ルールを守らせる」といった保護者の踏ん張りも必要。
- ④保護者には、家庭教育学級のケータイ教室にもっと参加してもらうよう呼びかけを考えていきたい。
- ⑤なかよし集会は、違う学年の子の意見が聞けたり、大勢の人の前で話せたり、いろいろな先生の話が聞けたりするので、よい取り組みだと思います。
- ⑥「早寝・早起き・朝ごはんを食べている」が不十分な子が 20%ほどいる。このような児童には、学校は、保護者との連絡を密にしてほしいし、保護者もしっかり意識を高くもって取り組むべきだ。
- ⑦あいさつは学校だけでがんばっても限界がある。家庭でも子どもに挨拶するように強く指導るべき。学校と家庭がお互い同じ歩調で取り組んでいくことが大切。
- ⑧児童の「3. 家で勉強している」「4. 進んで本を読んでいる」項目のなど極端に状況のよくないものは、学校として、もっと原因をはっきりさせる必要があるのではないか。